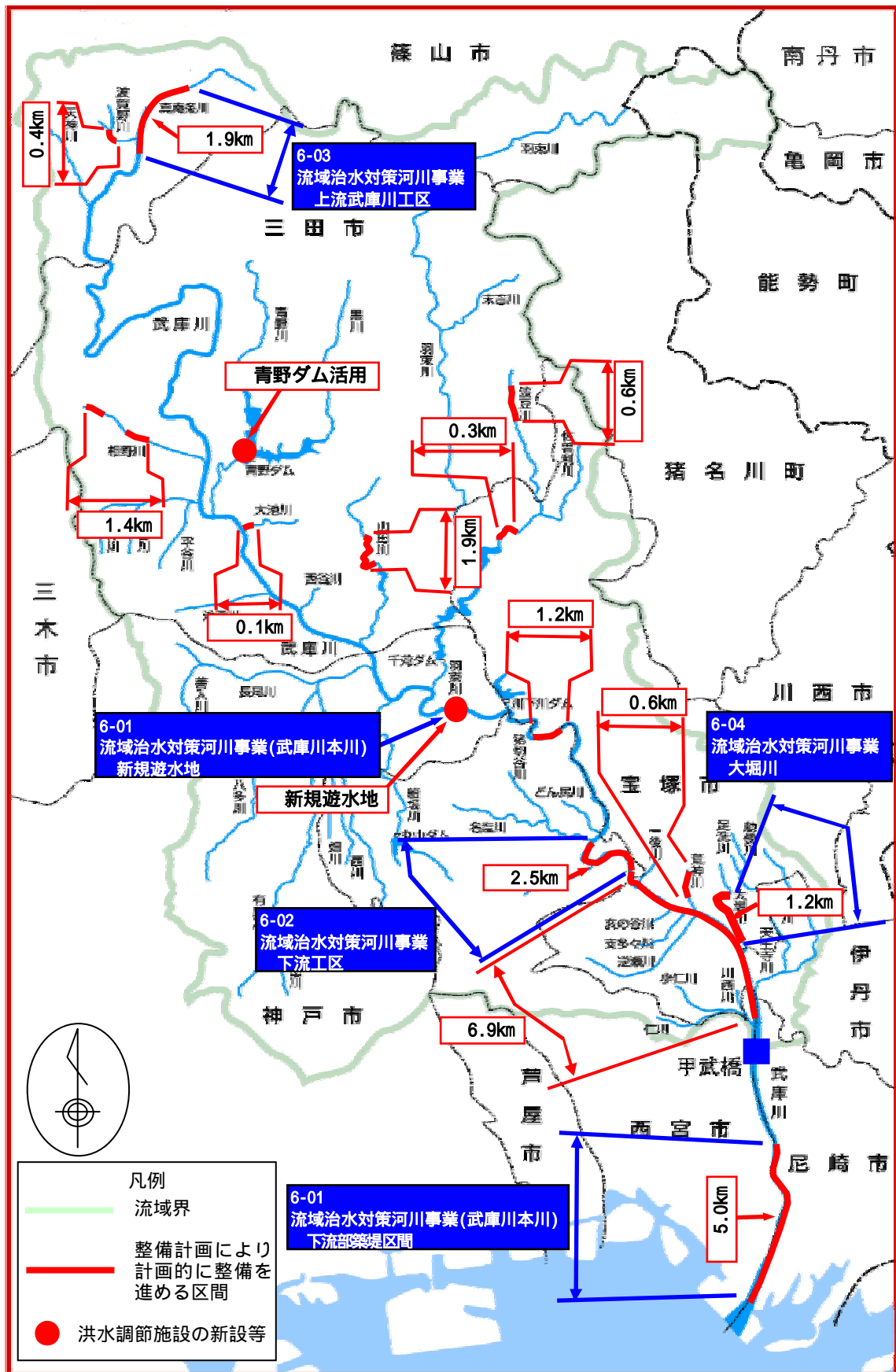


6 . 武 庫 川 水 系 河川整備計画

6 . 武庫川水系武庫川 河川整備計画 全体位置図



武庫川水系河川整備計画の概要

策定年度	平成23年度					
対象河川	武庫川水系流域内の全ての法河川（流域面積約500km ² ）					
整備目標流量	甲武橋地点 3,510m ³ /s〔戦後最大洪水：昭和36年6月洪水〕					
整備区間	河川名	No	整備区間	延長	備考	
	武庫川		河口 ～ JR東海道線橋梁下	5.0km	事業中	6-01
			仁川合流点～生瀬大橋	6.9km	未着手	
			生瀬大橋～名塩川合流	2.5km	事業中	6-02
			武田尾地区	1.2km	未着手	
			岩鼻橋～山崎橋 (一部真南条川含む)	1.9km	事業中	6-03
	大堀川		西田川橋～西ノ町橋	1.2km	事業中	6-04
	荒神川		国道176号～荒神橋	0.6km	事業中(市施工)	
	波豆川		滝本橋～島橋	0.3km	未着手	
	波豆川		中河原橋～護魔池	0.6km	事業中(1億円未満)	
	山田川		山田滑谷ダム上流1,050m ～砥石橋上流500m	1.9km	事業中 (10億円未満)	
	大池川		JR福知山橋梁	0.1km	事業中(1億円未満)	
	相野川		洞橋～相野川上流端	1.4km	未着手	
	波賀野川		JR福知山線橋梁～西角	0.4km	未着手	
	洪水調節 施設		青野ダムの活用	-	未着手	
		新規遊水地の整備	-	事業中	6-01	
対象期間	平成23年度から20年					

【 6 - 0 1 二級河川 武庫川(本川) 流域治水対策河川事業 】

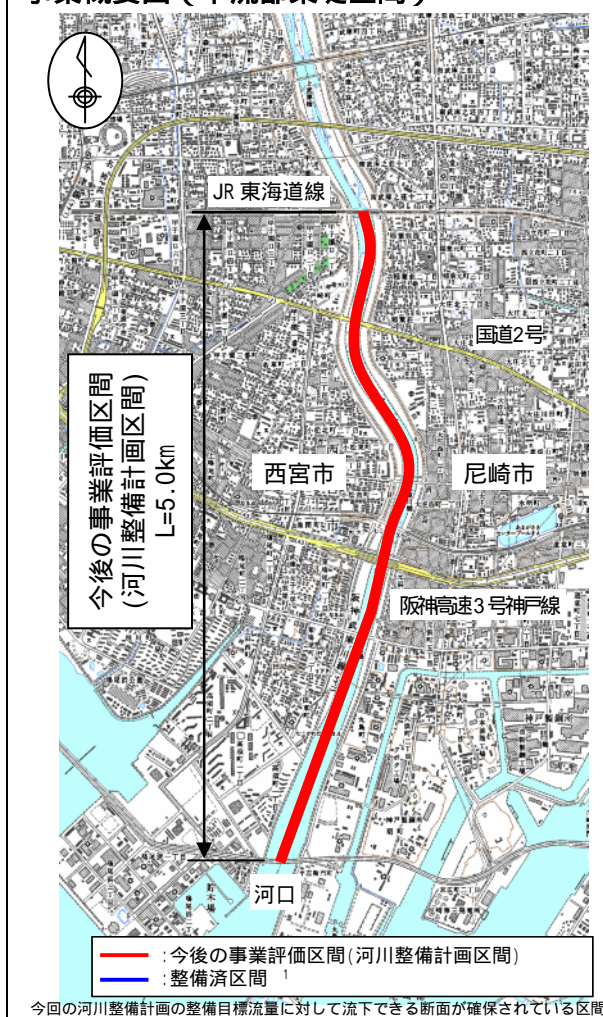
[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H22)
事業採択年度	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度		
下流部築堤区間	平成 42 年度	平成 42 年度
新規遊水地	平成 30 年度	平成 30 年度
総事業費	185 億円	185 億円
整備延長	5,000m	5,000m
整備区間	下流部築堤区間...河口～JR 東海道線橋梁下流 新規遊水地...武庫川上流浄化センター	

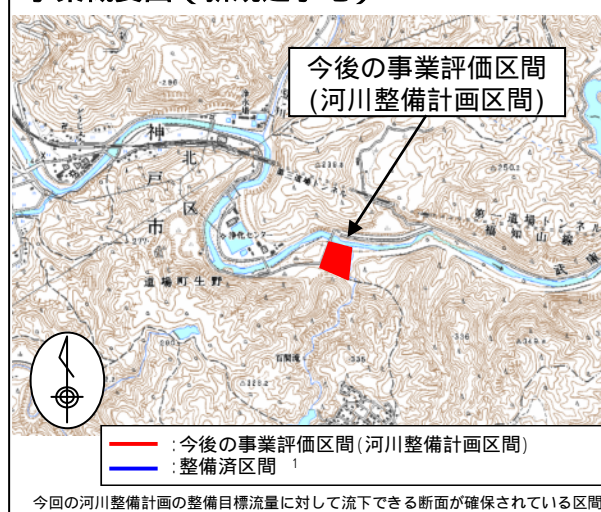
[今後] 河川整備計画に位置付けられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H22)
事業採択年度	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度		
下流部築堤区間	平成 42 年度	平成 42 年度
新規遊水地	平成 30 年度	平成 30 年度
総事業費	185 億円	185 億円
整備延長	5,000m	5,000m
整備区間	下流部築堤区間...河口～JR 東海道線橋梁下流 新規遊水地...武庫川上流浄化センター	

事業概要図 (下流部築堤区間)



事業概要図 (新規遊水地)



事業変遷

- 平成 12 年 9 月 : 知事が武庫川の治水対策に係わる新たな取り組みを表明
- 平成 16 年 3 月 : 武庫川流域委員会設置
- 平成 18 年 8 月 : 武庫川流域委員会が提言書を知事に提出
- 平成 21 年 3 月 : 武庫川水系河川基本方針策定
- 平成 22 年 1 月 : 武庫川流域委員会において武庫川河川整備計画(原案)を審議
- 平成 22 年 12 月 : 事業評価(新規)
- 平成 23 年 8 月 : 武庫川水系河川整備計画策定
- 平成 24 年 : 武庫川河川整備計画 策定完了報告 (再評価)

河川整備計画策定報告【6-01】

部課室名	県土整備部土木局 武庫川総合治水室 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	武庫川総合治水室長 笹倉 康司 河川整備課長 松本 正利 (課長補佐兼武庫川企画係長 勝野 真) (都市河川係長 山本 良太郎)	内線 (4424) (4417)	4441 4408 (4424) (4417)
------	-------------------------------	---------------------	---	------------------------	----------------------------------

河川整備計画名	武庫川水系河川整備計画
---------	-------------

河川整備計画の策定経緯	平成 21 年 3 月 10 日 河川整備基本方針策定 武庫川流域委員会(第 1 回～第 68 回) 平成 16 年 3 月 23 日～平成 22 年 9 月 16 日 河川整備計画策定 平成 23 年 8 月 26 日
-------------	--

河川整備計画と事業評価の関係	採択	～H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	H23						委員会立ち上げ						河川整備計画策定	
												新規		報告

武庫川流域委員会の主な意見	対応等
<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画の進行管理についての評価・改善の機能を担うフォローアップ委員会を設置し、「参画と協働」のもと、早期かつ着実に施策・事業を実施すること。 河道掘削に伴い、樹木伐採による景観の変化や河川敷の利用制限といった影響が生じることから、工事に際しては、地域住民等の理解と協力を十分得る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> H23 年 9 月「武庫川水系河川整備計画フォローアップ委員会」を設置。今後は、河川整備計画の着実な推進を図るため、PDCA サイクルによる進行管理の仕組みを導入するとともに、本計画に位置付けた施策や事業の実施状況等について情報発信し、地域住民等の理解と協力を得ていく。 河川整備の必要性等を広く周知するとともに事業への住民意見反映のため、H23 年度は、学識者や地域住民等からなる「武庫川河川整備地域懇談会」設置に加え、事業説明会や出前講座等を合計 50 回開催し、丁寧な説明と住民意見聴取に取り組んだ。引き続き、丁寧な説明等に努める。

事業種目	河川事業	新規評価年度	H22	現計画 ¹	前回(H22)
事業名	二級河川 武庫川水系武庫川流域治水対策河川事業(本川) 〔住宅市街地基盤整備事業〕	河川整備計画策定年度	H22	総事業費	185億円
		〔事業採択年度〕	H23	内用地補償費	4億円
		〔着工年度〕	-		
再評価年度					
事業区間	河口～羽束川合流点下流	完成予定年度	H42	H42	H42
所在地	神戸市北区道場町生野(新規遊水地)、尼崎市、西宮市	進捗率 (内用補進捗率)	4%(0%)	0%(0%)	0%(0%)
		残事業費	178億円	185億円	185億円

事業の目的	事業内容		
武庫川流域では、昭和58年の台風10号による甚大な浸水被害を契機に、昭和62年度から河川改修を進めてきた。平成5年度には、武庫川ダムにも着手したが、自然環境への影響が大きいとの反対の声が大きくなったこと等から、平成12年度に、総合的な治水対策をゼロベースから検討することとした。検討を行っている間も、河道対策を進め、現在、河口から生瀬大橋付近までの約16kmは概成*し、残る未改修区間は名塩川合流点までの約2.5kmとなっている。(*一部護岸補強が必要な区間があるため概成としている。) そのような中、平成16年10月台風23号により、下流部築堤区間では堤防の決壊には至らなかったものの、現河川改修の目標流量2,600m ³ /sを上回る2,900m ³ /sの洪水が発生した。武庫川の想定氾濫区域内の人口・資産は、全国の国管理河川の上位クラスと肩を並べ(全国10位)、それら国管理河川では、現在、戦後最大洪水への対応が進められている。そこで、武庫川においても、流域委員会等との議論を経て策定した「武庫川水系河川整備計画」に基づき、戦後最大洪水(昭和36年6月洪水)と同規模の目標流量の達成に向けて、総合治水の観点から流域全体で河川整備に取り組み、流域住民の生命・財産を守る。	現計画	前回(H22)	
	計画目標	戦後最大洪水(S36.6)	戦後最大洪水(S36.6)
	目標流量	3,510m ³ /s(甲武橋地点)	3,510m ³ /s(甲武橋地点)
	下流部築堤区間(河口～JR 東海道線橋梁下流)		
	事業費	160 億円	160 億円
	工期	H23 年度～H42 年度	H23 年度～H42 年度
	配分流量	3,200m ³ /s(甲武橋地点)	3,200m ³ /s(甲武橋地点)
	整備延長	5,000m	5,000m
	主要工種	掘削、護岸、横断工作物撤去改築補強(潮止堰1、床止工3、鉄道橋1橋、道路橋5橋、ガス管橋1橋)	掘削、護岸、横断工作物撤去改築補強(潮止堰1、床止工3、鉄道橋1橋、道路橋5橋、ガス管橋1橋)
	新規遊水地(羽束川合流点下流：武庫川上流浄化センター)		
事業費	25億円	25億円	
工期	H23年度～H30年度	H23年度～H30年度	
調節量	約20m ³ /s	約20m ³ /s	
整備概要	遊水地 1 箇所	遊水地 1 箇所	
	(容量:約 133,000m ³ 、水深:約 10m、面積:約 2.2 ha)	(容量:約 133,000m ³ 、水深:約 10m、面積:約 2.2 ha)	
主要工種	掘削、樋門 1 基	掘削、樋門 1 基	
〔負担割合 国 1/2、県 1/2〕			

1：河川整備計画策定後、H24 年度までに整備済みとなった部分を含む。

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
前回評価時点（H22年度新規事業評価）からの事業計画の変更はない。	
(1)必要性	<p>下流部築堤区間（河口～JR東海道線橋梁下流）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下流部築堤区間には人口・資産が高度に集積している。 ・堤防が決壊すると甚大な被害が想定されることから、住民の安全・安心な生活環境を早急に確保する必要がある。 <p>新規遊水地（武庫川上流浄化センターの用地を一部転用：神戸市北区道場町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後最大洪水に早期かつ着実に対応するためには、河床掘削等の河道対策に加え、新規遊水地等の洪水調整施設が不可欠である。
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C = 14.1 ・全国の国管理河川と同等の安全度(戦後最大洪水への対応)を確保することにより、阪神地域全体の経済・地域振興に寄与する。
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・区間全体にわたり、治水安全度の早期向上を図るため、段階的な施工を行う。 <p>下流部築堤区間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に、平成16年洪水(2,900m³/s)に対する治水安全度を確保するため、高水敷切下げ及び低水路拡幅を行い、概ね前期で、流下能力を概ね300m³/s増加させる。(流下能力 約2,800m³/sを確保) ・あわせて、河床掘削を順次実施し、計画期間内(H23～H43)での目標達成(河道への配分流量3,200m³/s)に努める。 <p>新規遊水地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね8年間(H23～30)で整備効果が発現できる新規遊水地に早期に着手し、約20m³/sの洪水調節効果を確保する。 ・新規遊水地の事業地として、武庫川上流浄化センターの用地を一部転用することにより、早期かつ確実に施設整備が可能である。
(整備効果の 早期発現)	
(3)環境適合性	<p>下流部築堤区間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮止堰等の撤去に伴い、魚類等の移動の連続性が向上するとともに、汽水域が拡大し、汽水・回遊種等の生息環境が改善される。併せて、流下能力に余裕のある河口部での干潟の創出に努め、生物多様性の回復に取り組む。 <p>新規遊水地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多自然工法を採用することにより、自然環境に配慮した取り組みを行う。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・下流部築堤区間には、流下能力が低いネック区間(武庫川橋上流(旧国道))があり、想定氾濫区域内には人口・資産が高度に集積していることから、治水安全度の早期向上が必要であり、下流部築堤区間の河道対策と新規遊水地整備の優先性は高い。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。